（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家さいだいじ館			
○保護者評価実施期間	2026年　10月　5日	～	2026年　10月　19日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	27	（回答者数）	27
○従業者評価実施期間	2026年　10月　5日	～	2026年　10月　16日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　11月　12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	バリアフリーに配慮された環境と、様々な障害種別・特性の児童が共に過ごす多様性のある成長環境	車椅子やバギーの利用に対応したバリアフリー設計の施設環境を活かし、重症心身障害児や医療的ケア児、発達特性のある児童など、多様な障害種別・背景を持つ子どもたちが日常的に同じ空間で過ごし、互いの存在を感じながら刺激し合える環境を提供しています。	個々の児童の心身の状態や発達段階に応じた安全なスペース調整や活動の工夫を行うとともに、子ども同士の自然な関わりや共生の経験がさらに深まるようなプログラムの工夫・職員間の支援スキルの共有に努めてまいります。
2	一人ひとりの発達段階や障がい特性に応じた専門的・個別的な支援の提供	集団活動だけでなく個別の課題時間を設け、児童の発達段階や心身の状態に合わせた課題（SSTや感覚統合や将来を意識した作業等）をきめ細かく設定・実践しています。	外部研修や施設内での事例検討会を定期的に開催し、職員全体の支援スキルの底上げを図るとともに、多角的な視点を取り入れたプログラムの質向上に努めてまいります。
3	保護者との緊密な連携および丁寧な個別相談対応	日常の送迎時や連絡帳での細やかな情報共有に加え、定期的な個別面談を実施し、家庭での様子や保護者の悩みに寄り添った支援方針への反映を徹底しています。	ブログ等の全体発信にとどまらず、今後はLINE等の個別連絡ツールも活用しながら、重要なお知らせや家庭で実践できる支援などを必要に応じて共有してまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域社会に向けたインクルーシブ（共生）な交流の機会の不足	施設内ではバリアフリー環境を活かした多様な児童の受け入れができているものの、日々の送迎や安全管理の遂行が最優先となっており、地域社会と日常的な交流を図る機会を十分に持てていないこと。	地域行事への参加やボランティア受け入れの可能性を模索し、施設内だけでなく地域全体の中で障害児・医療的ケア児への理解が深まるような発信や交流の機会を少しずつ検討していきます。
2	保護者の就労状況やニーズに応じた「家族支援プログラム」の計画・実施に関する検討	日々の個別のやり取りの中で個別対応が十分に図られている一方で、保護者を対象とした集団での家族支援プログラムに関するニーズ調査や意見聴取の機会を十分に持てていないこと。また、各家庭の就労環境等に配慮する必要があり、一律の企画が困難であること。	保護者のご負担にならないよう配慮しつつ、まずはアンケート等を通じて潜在的なニーズや希望する支援の形を慎重に把握する。その上で、個別相談の深化や、無理のない範囲での情報提供など、各家庭の状況に寄り添った支援のあり方を検討・推進していきます。
3	非常時マニュアルや安全管理体制の保護者への直接的な周知・共有の徹底	防災訓練やマニュアルの策定・更新は行っており事業所内では共有できているものの、その具体的な内容や避難・引き渡し手順を、保護者がいつでも確認できる形で直接周知しきれていないこと。	防災・緊急時対応マニュアルの要約版を作成し、ブログ等の限定的・オープンな情報掲載だけでなく、LINE等の個別連絡ツールを活用して各ご家庭に直接配信・共有し、保護者様の理解と確実な浸透を図っていきます。